
令和7年度 第1回午前（4科目）

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和7年2月1日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図^{あいず}があるまで、この冊子^{きつし}の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外^{ほか}のものを置いてはいけません。受験生^{くせんせい}どうしの貸し借り^{かかしかり}もできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. スマートフォンは、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子^{もんたいさふし}の印刷^{いんさつ}が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は19ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の——線部のカタカナを漢字になおし、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 久しぶりにコキヨウへ帰ることができた。
- ② どこに住んでいても、サイガイへの備えは必要だ。
- ③ 雨が激しく降り出したため、行事はエンキとなった。
- ④ サンチヨウからながめる景色は、感動あたを与える。
- ⑤ 新しい機械をドウニユウしたおかげで、作業がはかどる。
- ⑥ 彼らかれがエンソウしている曲に聞き覚えがある。
- ⑦ 職人は長年の努力により技術をジユクタツさせる。
- ⑧ 待ち望んだ朗報かのじょに彼女はようやく安心した。
- ⑨ 身勝手の発言に、その場にいたみんなは閉口した。
- ⑩ リーダーの言葉にみんなが呼応し、行動を共にした。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

テレビのバラエティー番組等でも時々見るバンジージャンプは、オーストラリア東方の南太平洋に浮かぶ国、バヌアツのペナテコス島で行われるナゴールと呼ばれる通過儀礼(成人になるための儀式)が起源と言われています。バンジージャンプには伸縮性のあるゴムが使われますが、ナゴールではヤムイモのつるを足に巻きつけ、高さ数十メートルにもなるやぐらの上から飛び降りるので、その衝撃はバンジージャンプの比ではないそうです。この儀式の重要な点は、参加者はただやぐらから飛び降りるだけでなく、自分が使うヤムイモのつるを、その長さや強度なども含めて自分で決めることになっています。つるが長過ぎたり、弱かったりすれば、地面に激突することになります。実際け人が出ることも珍しくなく、時には死に至ることもあるそうです。アトラクションと化している現代のバンジージャンプでは、安全性は基本的に事業者が(注1)担保し、飛ぶ側は誓約書を書いてお金を払うだけです。しかし、ナゴールは単なるやんちゃな度胸試しではなく、まさに命がけであり、自分の命を自分で守るという責任が負わされています。だからこそ、それができることが大人の証、つまり通過儀礼とされるのです。

こういった通過儀礼は世界各国にあり、たとえばアフリカのマサイ族では、かつてライオンを投げやりで仕留めることが成人になるための通過儀礼として課されていたそうです。サバンナに一人で出かけて百獣の王であるライオンを狙うのですから、逆に命を落とすことも当然時には起こります。近年ではライオンの個体数の減少からこの儀礼は禁止されたそうですが、これも正真正銘の命がけです。しかし、この通過儀礼を成し遂げることで、一人前の男として認められ、大人の仲間入りができたのです。

こういった命がけの通過儀礼は、現代の我々から見れば理解できない野蛮な風習のようにも映ります。いくら通過儀礼と言っても死んでしまつてはA元も子もない。物には程度というものがあり、そんな過酷な試練は課すべきではない。確かにその通りでしょう。しかし、ではどうしてそんな儀式が世界各地にあるのか? 現代の自分たちの常識で「野蛮な風習」と簡単に切り捨ててしまうのではなく、そのこの意味をもう少し考えてみる価値があるのではないか、私はそう思うのです。

ゼロにならない (注2) リスク

こういった通過儀礼に共通していることは、恐怖心に打ち勝つ、そして困難なことをやり遂げる、この2点です。お恥ずかしい話ですが、私は結構、臆病な方です。飛行機に乗る時などは、毎回、離陸の際に墜落したらどうしようなどと考えてしまいます。国際航空運送協会(IATA)が2019年に発表したデータでは、飛行機の事故発生確率は100万フライトあたり1.13回とのことですが、単純に計算すれば、たとえば毎日飛行機で職場まで往復したとしても、事故にあう確率は1200年に1回程度になります。『枕草子』を書いた清少納言が「(注3) けふも、ひこふぎ、いとをかし」とでも言いながら、平安時代からいままで毎日飛行機に乗り続けていたら、1回くらいは事故にあっているかもしれない。そんなレベルの話です。

しかし、です。厳密に考えれば、清少納言が初めて飛行機に乗った時に事故にあってしまう確率もゼロではない。それもまた事実です。そして言うまでもなく、それは清少納言だけでなく誰が飛行機に乗っても同じであり、つまり臆病な私の心配にもまったく根拠がないとは言い切れないのです。

実は私たちの周りには多くの小さなリスクが無数に存在しています。新型コロナウイルスの (注4) パンデミックで、バスや電車のつり革やドアノブなどを触ることのリスクが指摘され、アルコールで手を消毒することも日常の光景となりました。しかし、以前から (注5) 潔癖症と呼ばれる人々はそういった「ばい菌」が周囲にいることに敏感で、バスや電車のつり革を触るなんてとんでもない、と感じていたのです。潔癖症の人たちは、ややもすれば「病的」などと形容されますが、決してその主張に根拠がない訳ではなく、コロナ禍は実際に一定のリスクが存在していることを (注6) 顕在化させました。車に乗れば、あるいは普通に町を歩いていても交通事故にあうリスクがあり、山に行けば遭難の、また海に行けば溺れてしまうリスクが実際にあります。科学がこの世のすべてを解明している訳でもないのですから、地球に宇宙人が来ていることも、お化けがいることも、先祖を供養しなければたたりがあることも、完全に否定できる訳ではありません。もちろん (注7) 蓋然性の高いリスクから、普通はあり得ないようなリスクまで、確率を考えれば幅はありますが、ゼロにならないリスクはこの世に無限に存在している。そのことは厳然たる事実です。

何が「正解」なのか

④ 幸いなことに、日頃私たちはそんなリスクのことをあまり意識していません。考え始めればリスクは無限にあるのですから、心の防衛機能として生まれながらに人はそのようにできているのかもしれないかもしれません。しかし、意識しようとしまいとリスクはどこにでもあるのがこの世界の本当の姿であり、**あ** 私たちが何か重要な選択をしなければならなくなった時、それは否応なく目の前に現れてきます。あまり想像したくないたとえ話にはなりますが、もし腎臓がなくなったとして、腎臓全部を摘出すか、がんになった箇所を部分的に切除するか、という選択があったとしましょう。部分切除で済ませた場合は体への負担が少なくて済みますが、がんが残ってしまうリスクがあります。一方、全部摘出すれば、その意味ではより安全ですが、腎臓が一つになってしまうと、将来的に腎機能に障害が出て、**い**、あるいはあなたが野球少年で、野球推薦で強豪校に入るか、普通に試験を受けて進学校に入るかという選択があったとしましょう。プロ野球選手を目指すのなら、強豪校に入って甲子園のような大きな大会に出場した方が良いことは間違いありません。しかし、プロ野球選手となって活躍できる人はエリート中のエリートで、多くの人は夢叶わず途中で脱落していきます。進学校に行つて公務員にでもなれば、より安定した生活が保障されるでしょう。**う**、仕事が退屈でプロ野球選手になりたかったという自分の思いが人生を通じてずっと残ってしまうようなことにもなりかねません。

さてこんな場合、どのような選択をするのが「正解」なのでしょう？ 人生を大きく左右しかねない重い選択を目の前にすると、その選択に伴うリスクが誰でも気になります。なるべく失敗のない良い選択ができるようにと情報を集め、選択肢のリスクと **(注9)** ベネフィットを正確に把握しようとする多くの人が努めることでしようし、実際それは大切で必要なことです。しかし、ベストな選択は何か、それを一生懸命考え、調べていけばいくほど、それまで見えなかったリスクが見えてきたり、結論が真逆になっている情報があることに気づいたりして、何が正しいのか、どうしていいかわからなくなる。「ベストの選択がしたい」、「リスクのない選択をしたい」という思いが強すぎると、**B** 足がすくんで、何も選べなくなってしまう。

学校の勉強であれば、より詳しく調べていけばいつかは正解にたどり着く、それが普通かもしれません。しかし、現実の世界を生きていくということは、実はそんなものではない。どんな選択をしてもそれに伴うリスクが必ず存在し、現実の問題の多くには、そもそも絶対正しい「正解」なんてない。でも、その中で私たちは何かを選んでいかななくてはならないのです。何が正解なのかわからない、自分の選択は間違いなのかもしれない。そんな恐怖に耐えて、自分の責任で何かを選んでいくのです。より

良い選択をするための努力はとても大切です。でも、自分のやれる限りの準備をしたら、^⑤あとはもう「飛ぶ」しかない。それができなければ、大人になれない。一人の人間として、この世界と^(注10)対峙して生きていくことができない。それを世界各国にある過酷な通過儀礼は教えてくれているのではないか、私はそう思うのです。

「白の選択」と(うしろ)の目

私は、アメリカの実業家であるジャック・ウェルチの「自ら選ばない者は、他人に支配される (Control your own destiny, or someone else will)」という言葉が好きです。リスクを強調して不安を煽り、そこに「救い」を提示するという手法は、人を支配すること、またそれを利用して無限の富を生み出すことに、古くからずっと使われ続けてきました。それは不安を生み出すリスクは程度の差こそあれ、実際にある。だから効果的なのです。しかし、リスクを前にして立ちすくみ、何かを選ぶことから逃げ続けていると、誰かに支配されてしまう。ジャック・ウェルチの言はそう教えてくれています。それは自らの力でこの世界と対峙することから逃げている行為だからです。絶対に正しい選択など、誰にもできない。私たちにできることは、ベストの選択をすることではなく、^⑥自分の選択をベストにするように生きていくことだけです。その覚悟こそが「自分の人生を自分のものにする」ということなのだ、私は思っています。

(中屋敷均 『わからない世界と向き合うために』より)

(注1) 担保する||責任を持って保証すること。

(注2) リスク||危険。

(注3) けふも、ひこふき、いとをかし||「今日も、飛行機、とてもおもしろい」という意味を平安時代の言葉で言ったもの。

(注4) パンデミック||感染症が世界的規模で同時に流行すること。

(注5) 潔癖症||不潔、不正を強くきらう状態。

(注6) 顕在化||はつきりと形にあらわれること。

(注7) 蓋然性||ある事柄が起こる確実性や、ある事柄が真実として認められる確実性の度合い。

(注 8) 人工透析じんこうとうせき || 腎臓じんぞうの病びょう気きなどの際さいに、人工じんこう的に血ち液りょくをきれいにすしる治ちり療りょう法ほう。

(注 9) ベネフィット || 利益。

(注 10) 対峙たいじ || 向むかき合あって立たつこと。

問 1 波線部 A 「元も子もない」、波線部 B 「足がすくんで」の本文中での意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 「元も子もない」

ア. 常識としては通用しない

イ. あまり大きな価値がない

ウ. どこに行っても認められない

エ. すっかりむだになって何も残らない

B 「足がすくんで」

ア. 恐怖きょうふや緊張きんちやうのために足あしがこわばり自由じゆうに動うごかなくなつて

イ. 期待きたいと不安ふあんのために足あしもとが落ち着ちかかなくなつて

ウ. 不満ふまんや怒いかりのために足あしの震ふるえが止とまらなくなつて

エ. 後悔こうかいと恥ちずかしさのために足あしが思い通とおりに動うごかなくなつて

問2 — 線部①「この儀式ぎしきの重要な点は、参加者はただやぐらから飛び降りるだけでなく、自分が使うヤムイモのつるを、その長さや強度なども含めて自分ぶくで決めることになっていくことです」とありますが、なぜそれが重要なのでしょうか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. ナゴールは、現在では単なるやんちゃな度胸どきょう試しになってしまったから。

イ. ナゴールは命がけであり、自分の命を自分で守れることが大人の証あかしとなるから。

ウ. ナゴールの衝撃しょうげきは、アトラクションと化したバンジージャンプの比ではないから。

エ. 現代におけるナゴールの安全性は、基本的に事業者が担保しているから。

問3 — 線部②「現代の自分たちの常識」とありますが、それはどのような考え方でしょうか。四十字以上五十字以内で説明しなさい。句読点などの記号も字数にふくめます。

問4 — 線部③「臆病おくびょうな私の心配にもまったく根拠こんきょがない」と言い切れない」とありますが、筆者がどのように考えるのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. どれだけ確率が低いとしても、一定のリスクは常に存在しているから。

イ. データは過去の事実に基づいてはいるものの、全ての事実を踏ふまえているとは限らないから。

ウ. いくら低いリスクであっても、そういったリスクの存在は常に増えているから。

エ. 客観的なデータを示されたとしても、それをどう解釈するかはその人次第しだいだから。

問5 — 線部④「心の防衛機能」とありますが、ここではどのような心の働きのことをさしていますか。その内容の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア．私たちにリスクを過度に意識させないことで、私たちが不安にとらわれずに日常生活を過ごせるようにしてくれる心の働きのこと。

イ．私たちが私たちの周りにある多くの小さなリスクに気づいた時、それらを無意識のうちになかったものと忘れさせる心の働きのこと。

ウ．私たちは生活する中でさまざまなリスクに直面しているが、直感的にそのようなリスクから逃れる行動を私たちにとらせる心の働きのこと。

エ．私たちは自分の判断を周囲から責められることがあるが、その際に自分は正しいと自信を持たせてくれる心の働きのこと。

問6 本文中の空らん にあてはまる語として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で

答えなさい。同じ記号は一度しか使えません。

ア．しかし イ．また ウ．たとえば

問7 — 線部⑤「あととはもう『飛ぶ』しかない」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適切なものを次の

中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア．いくら時代に合わせて合わない野蛮な文化だとしても、その地域で生活していくためには従わなければならないということ。

イ．目の前のリスクに怯えていても誰かが助けてくれるわけではないので、最後はひとりりで決断するしかないということ。

ウ．どんな選択にもリスクは存在するので、十分な準備や考慮をした後は覚悟を決めて行動に移すしかないということ。

エ．自分でやれるだけの準備をすると、誰もが不安から解放され満足した気持ちで儀式に参加できるということ。

問8 この文章を読んだ生徒達が——線部⑥「自分の選択をベストにするように生きていく」ために必要なことをテーマに話し合いました。生徒AとEの中から内容を誤解ごかいした発言をしている生徒をひとり選び、AとEの記号で答えなさい。

生徒A：この文章を読んで、自分の選択がどれだけ大事かってすごく考えさせられたよ。ヤムイモのつるの長さを自分で決めなきゃいけない、っていうところが特にそうだね。自分で選んだことには、自分で責任を持たなきゃならないんだ。

生徒B：そうだね。でも、選ぶのって怖いこわことでもあるよね。どんなに調べても、絶対に正しい選択なんてないかもしれないし。それでも、自分の選んだ道をベストにする努力をしなければいけないんだと思う。

生徒C：僕もそう思うよ。プロ野球選手になるか、公務員になるかっていう例があったけれど、どっちが正しいかなんてわからない。でも、だからこそ、自分が本当にやりたいことを選んで、その選択を後悔しないように全力を尽くつくことが大事なんだろうね。

生徒D：うん、だから自分の判断がすごく重要なんだよね。学校の勉強でも人に正解を教えてもらわず、自分が納得なっとくする答えを信じる。それができないと、結局他人に支配されることにつながるかもしれない。それって、自分の人生じゃなくなっちゃうんじゃないかな。

生徒E：自分の人生を生きるには、リスクを考えすぎて動けなくなるんじゃないかって、自分の選択を信じて進むことが大切なんだ。結果がどうなるかはわからないけど、自分で選んだ道なら、その結果も自分で受け止める覚悟が必要なんだと思う。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

仕事になじめず会社を退職した「みなと」は、ある日公園の隅すみに置かれていた箱の中から手紙を見つけ、不登校の高校生「飛鳥（あすか）」と（注1） 文通を始める。「自分たちのように、手紙で気持ちを伝えたい人はいるはずだ」と考えた二人は、新しい仕事「文通屋さん」をやるうと計画し、支援者しえんしゃを集めるために（注2） クラウドファンディングちゆうせんに挑戦する。以下の文章は、文通屋さん『鳥と港みなと』の活動初日の場面である。

こん、こん、こん、という音が響く。

飛鳥くんが爪つめで座卓ざたくを叩く音だ。

時計の針が時を刻む音。

蝉せみの鳴き声。

（注3） 長押なげしに吊した風鈴ふうりんが揺れる音。

たくさんの音の中、エンジンの音が聞こえて、① 飛鳥くんがぱつと体を起こした。私も頬杖ほおづえを外して中腰ちゆうようしになる。

ここか。どうだ。まだ早いか。でも、時間的にはそろそろだ。

呼び鈴が鳴って、ふたり同時に立ち上がった。そのまま和室を飛び出し縁側えんがわをどたどたと駆けるか。飛鳥くんはさすがに速い。

裸足はだしのまま（注4） 三和土たたくきに下りて、勢いよくドアを開ける。

門の外で、郵便配達のおじさんが目を丸くしていた。お間違まちがいしないですかと差し出された包みの、差出人を確認する。レンタルポストからの転送だ。ついに来た。

受領のサインを書いて、飛鳥くんと小走りせうしで和室わむしに戻る。

② クリスマスプレゼントを貰もらった子どもみたいにバリバリ包装を破りたいのを堪こらえながら、慎重しんちゆうに包みを開けて、束を取り出す。

「ほんとにきた……」

「きたね……」

束ねている紐を切って、慎重に畳の上に並べる。

厚みも大きさもデザインも違う、三十通ほどの手紙。個性のある手書きの文字で、表面には『鳥と港さま』と宛名が、裏面には送り主の名前と、全国各地の住所が書かれている。

一通、そつと持ち上げる。あなたの指先から、私の指先まで。それぞれの思いが詰まりに詰まった手紙。確かに伝わる重みとぬくもりに、胸が熱くなる。早く読みたくてたまらない。

今すぐ全部の手紙に目を通したい気持ちを抑えて、七月のうちにソフトで作成しておいた指名表を見ながら、私宛てのものと、飛鳥くん宛てのものとを仕分けていく。予想通り、飛鳥くん宛てのものが多い。「どちらでも」を選んだ人は私がすべて引き受けることにした。それでも六対四ぐらい。

表に受理した日を入力すると、返信期限日が自動計算で出てくる。これを見ながら、十日以内に返すのがルールだ。

私宛ての手紙をレターカッターで一通ずつ開け、ゆっくりと目を通していく。

応援していること、文通をしてみたいと思っていたこと、あなたの考えに興味を持ったということ、好きなことや話してみたこと。すべての手紙の一文一文から、まあたらしいどきどきとわくわくが伝わってきて、手紙を胸に抱きしめたい衝動に駆られる。

④斜め向かいから、ふーつ、と大きく息を吐き出す音が聞こえた。

「どうだった？」

「やばい」

飛鳥くんが手で顔を覆っている。

「(注5) 実へのファンレターみたいなのも混じってるけど」

「うん」

「ちゃんと、俺宛でもある」

「うん」

「すげえ」

声によるこびが滲み出ている。うん、と、自然とやさしい声が出た。うれしいね、よかったね、と背中を叩いてやりたくなる。

「あ、そうだ。(注6) ゲンさんからの手紙も混じってたよ」

手紙の束から『横田源造』と書かれた封筒を抜いて渡す。飛鳥くんが顔から手を離れた。紅潮した頬に指の跡が白く残っている。

「え、ああ、郵送に切り替えたんでしたっけ」

飛鳥くんが便箋を取り出して座卓に広げた。

みなとさん あすかさん

ゲンです。手紙は届きましたか。毎日暑いのでジロの散歩は朝早くにしています。ジロが行きたがるので公園にも寄っています。

昨日は近所の神社に行きました。日繩神社です。行ったことはありますか。祭りです。犬は連れて入ったらいけないので、一人で焼きもちを食べました。みなとさんとあすかさんはなにが好きですか。子供達はりんごあめが好きでした。よく買ってやりました。真面目でやさしい自慢の子らです。今も親を頼らず立派に暮らします。孫らも毎年来ます。じいじ、と慕ってくれます。すいかを買って待ちます。今年の盆も楽しみです。

「元氣そうだね」

「どうします？ ゲンさんへの返事、先に書いちゃいます？」

「うーん、とりあえず “鳥と港” の分からいこうか」

ゲンさんへの返事には期限がないし、いつでも書ける。そうですね、と飛鳥くんが頷き、ゲンさんからの手紙をレターケースに入れた。

飛鳥くんの部屋からふたりで段ボールを持ってくる。『鳥と港』のオリジナル便箋と封筒だ。(注7) 生成りのやわらかい風合いの紙。ロゴをかたどったスタンプは、七月の準備期間中にすべての便箋に捺しておいた。

ふーっ、と息を吐いて、「じゃあ」と目で合図する。

向かい合いながら、私たちはべつべつの世界にいく。

⑤ 時計の針が時を刻む音。

蝉の鳴き声。

風鈴の音。

そこにペンを走らせる音と紙ずれの音が加わる。

一通書き終えたところで、こっそり飛鳥くんを盗み見た。

真剣な顔つきだ。手を止めて、(注8) 逡巡して、また書き始めては手を止めて。自分のことば、記憶、知識、経験、思い出、

考えを総動員しているのが表情から窺える。

邪魔しないようにそっと視線を外して、私も自分の手紙に戻る。

……はじめまして、『鳥と港』のみなとです。お手紙ありがとうございます。荷ほどきの合間に、ベランダでお手紙を書かれたとのこと。すごく素敵ですね。桑島さんの文章から、そのときの情景や、ベランダに差す光や吹きそよぐ風の匂いまで感じられるようです。

新天地はいかがでしょうか。私も大学のときは家を出てひとり暮らしをしていましたが、その土地の気候や風向きが心と体になじむまで、少し時間がかかったように思います……

……(注9) 『春の祭典』！ピナ・バウシユがお好きなんです(それともベジャールのほうでしょうか?)。ピナ・バウシユであれば、私もヴツパタール舞踊団の来日公演を観に行ったことがあります(そのときは『カーネーション』でしたが。素晴らしい公演でしたが、鳥肌が立ちっぱなしで、翌日はぐったりと寝込んでしまった記憶が)。

それにしても、まさか初めてのお手紙でルドルフ・ラバンの話が出てくるとは！ 思いもありませんでした。ひよつとすると、あかねさんとは研究テーマが近かったのかもしれないね……

……素敵なお土産みやげありがとうございます！ アフリカンプリント、大好きです（開けた瞬間しゅんかん、向かいにいる飛鳥くんに見せびらかしてしまいました）。今週末日本を出られるということは、私のお返事が着く頃ころには、松野まつのさんはもうストックホルムの空の下にいるんですね。湿気しっけのないヨーロッパの夏うらや！ 羨うらやましいかぎりです。さっぱりとした（そして時にとても厳しい）日差しが、町人も美しく輝かがやかせるベストシーズンですよ。北欧ほくおうは未踏みとうの地なので、いつか行きたいです。できれば夏至祭げしまつりのタイミングで。

今まで行ったことがあるのは、パリ、ニース、ウィーン、ハイデルベルク、ロンドン、コッツウオルズ、台北たいぺい、九龍きゅうりゅう、シャウエン——と、書き出してみたらヨーロッパが多いですね。短期留学のついでに回った、という感じですが……

^A 和室わむろが茜色あかねいろに染まる頃ころ、どちらともなく、手紙を書く手を止めた。

「書きすぎた……」

飛鳥くんが手首をぶらぶらと振った。私も眉間みけんを揉もむ。

「何通？」

「九通。みなとさんは？」

「七通。うれしくなっちゃって、つい。明日からは、もうちょっとペース落とそうか」

「ですね。お互いたが、（注10）¹⁰ 腱鞘炎けんしやうえんにだけは気をつけましょ」

言いながら、飛鳥くんが仰向けあおむに寝転ねころんだ。

「あれも書きたいこれも書きたいってのが多くて自分でもびっくりしてる。三枚以内でってルールだから、がんばって抑えてるんだけど。ぜんぜん足りない」

「ね。夢中になっちゃった」

「あと、けつこう疲れる」

「わかる。⑥自分を丸ごと使うから、消耗するよね。今、頭ぐわんぐわんしてるもん。それと、思ったより漢字出てこなくてびっくりした」

「俺も。漢字ミスって書き直ししまくった。便箋も無駄にしたし、明日からはもうちょい慎重に書くわ」

「私もそれ。ひと文字も間違えないってわりとたいへん」

「いきり伸びをして、腰をぐいっと回したところで、あ、と思い出した。」

「しまった。ゲンさんへの返事、書いてなかった」

「明日にしてもいいですか？ ちよつと手が限界」

「だね。そうしよ」

私も横になる。ぬるい風が和室を吹き抜けた。どこか懐かしい匂い。夏の暮れどきの匂いって、どうしてこうも胸をしめつけるのだろうか。

長押の風鈴が控えめに音を立てる。汗が少しずつ冷えていく。飛鳥くんは寝息を立てている。お腹が出ているのが見えたから、何かかけてあげないと、と思ったけれど、すぐにまぶたが落ちてしまった。

(佐原ひかり『鳥と港』より)

(注1) 文通 || 距離の離れた相手と手紙をやりとりすること。

(注2) クラウドファンディング || 資金を集めるためにインターネット上で広く支援を呼びかける手法。

(注3) 長押 || 日本建築で、柱から柱へと水平に打ち付けた材。

(注4) 三和土 || コンクリートや土で固めた土間。

(注5) 実 || 飛鳥の父で有名な小説家。彼の協力でクラウドファンディングが成功する。

(注6) ゲンさん || みなとと飛鳥の文通仲間。公園の箱を使って三人は文通をしていた。

(注7) 生盛り || 手を加えていない素材のままの白色。

(注8) 逡巡しゅんじゆん 〓 決断できないで、ぐずぐずすること。

(注9) 『春の祭典』 〓 以下 〓 『春の祭典』 はストラヴィンスキーが作曲したバレエ音楽であり、ドイツのダンサーであるピナ・バウシュやフランスのダンサーのベジャールによって演じられた。『カーネーション』 はピナ・バウシュが演出・振付を

した舞台であり、ルドルフ・ラバンはオーストリアのダンサーである。
(注10) 腱鞘炎けんしやうえん 〓 手首や指の使いすぎによる炎症えんしやう。

問1 波線部A 「和室わくむろが茜色あかねいろに染まる頃ころ」はどういう時間帯を表していますか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 朝 イ. 昼間 ウ. 夕方 エ. 夜

問2 波線部B 「まぶたが落ちてしまった」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 笑ってしまった イ. 泣いてしまった ウ. 忘れてしまった エ. 眠ってしまった

問3 〓 線部① 「飛鳥あすかくんがぱっと体を起こした。私も頬杖ほおづえを外して中腰ちゆうこしになる」とありますが、二人がこのような反応を

したのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 静かで退屈たいくつな昼間を過ごしていたのに、急にエンジン音が聞こえ、二人ともびっくりしたから。
イ. 郵便配達ゆうびんぱいたいのバイクと思われるエンジン音が聞こえ、待ち望んでいた手紙が配達されると思ったから。
ウ. エンジン音が聞こえたため、誰かだれが来るのではと思い、玄関げんかんに出迎でむかえに行こうと思ったから。
エ. 静けさを破るようなエンジン音によって昼寝ひるねから起こされ、とっさに状況じやうきやうをつかむことができなかったから。

問4 —線部②「クリスマスプレゼントを貰った子どもみたいにバリバリ包装を破りたいのを堪えながら、慎重に包みを開けて、束を取り出す」とありますが、「手紙」に対するどのような思いが読み取れますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. すぐに読みたいとあせる一方、飛鳥を意識して冷静にふるまわなければならないという思い。

イ. うれしさのあまり子どものように興奮したが、我に返って落ち着かなければならないという思い。

ウ. 手紙に感激しながらも、「文通屋さん」としての責任をしっかりと果たさなければならぬという思い。

エ. 早く中身を見たいと思いつつも、大切なものとして丁寧^{ていねい}に扱^{あつか}わなければならないという思い。

問5 —線部③「三十通ほどの手紙」とありますが、これらをふたりはどのように扱いましたか。その説明として適切でない

ものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 手紙が受理されてから十日以内に返事を送る。

イ. 「どちらでも」を選んだ人については、みなとが対応する。

ウ. 返事は便箋三枚以内で書く。

エ. 返信用の封筒などは、二人がそれぞれに選んだものを使う。

問6 — 線部④「斜め向かいから、ふーつ、と大きく息を吐き出す音が聞こえた」とありますが、この時の飛鳥の様子の説明

として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 待ち焦がれていた自分宛の手紙が届き、手紙の一文一文から伝わる書き手の思いに言葉にならない感動と満足感を味わっている様子。

イ. 無事に手紙が届き緊張から解放され、息をするのを忘れるほど夢中になって内容を読んでいく中で、これまでの苦労や不安をかみしめている様子。

ウ. 多くの手紙が届いて喜んでいたが、実へのファンレターもふくまれており、活動の成功までにまだ苦労が続くだろうと自分をいましめている様子。

エ. 周囲の反対を押し切り、不安のある中で始めた活動だったが、幸先の良いスタートが切れたことで、喜びをかみしめて一安心している様子。

問7 — 線部⑤「時計の針が時を刻む音。蝉の鳴き声。風鈴の音。そこにペンを走らせる紙ずれの音が加わる。」とあります

が、この表現の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 二人で相談することもなく、よそよそしい雰囲気で自分の担当の手紙を書く様子。

イ. 知らない人からの、思いがけない内容の手紙のために声も出せず、それぞれが緊張している様子。

ウ. 二人がそれぞれ話すこともせず、手紙の返事を書くことに集中している様子。

エ. 無駄におしゃべりすることなく、「文通屋さん」の仕事を事務的に進めている様子。

問8 本文中でみなとが返事を書いている相手の手紙の内容として適切でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. バレエが好きなので、振付師やダンサーについて書いた手紙。

イ. 近所の祭に行ったことや、孫が来るお盆を楽しみにしていることが書かれた手紙。

ウ. 最近引越しをし、荷物をほどこしながらベランダで書いた手紙。

エ. 海外から帰って来たばかりで、来週にはストックホルムに旅立つという手紙。

問9 —線部⑥「自分を丸ごと使う」とありますが、どういうことですか。これについて説明した次の文の空らんに入れるのに最も適切な部分を本文中から三十字でぬき出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。ただし、句読点などの記号も字数にふくめます。

三十字

ということ。

問10 日本郵便が運営する「青少年ペンフレンドクラブ」は一九四九年に約六千人で発足しました。文通人気の高まりから会員が増え、ピークの六〇年には約八万三千人が手紙やはがきをやり取りしていました。インターネットや携帯電話の普及などで会員が減り、二〇〇九年には四千五百人まで落ち込みましたが、十代から二十代を中心に加入者が増え、二〇二三年二月末で一万七千人を超えています。

このように加入者が増えたのは手紙のやり取りにどのような魅力があるからだと思いますか。本文のみなど飛鳥の様子を踏まえて、あなたの考えを次の空らんにあてはまる形で述べなさい。ただし解答は四十五字以上六十字以内とし、句読点などの記号も字数にふくめます。

四十五字以上六十字以内

という魅力があるのではないかと考えた。

(おわり)